

市町村名 大宜味村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-① 大宜味村観光情報発信整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ
担当部署名	産業振興課、企画観光課	事業実施(予定)年度 平成24~30年度	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容 観光資源(文化財、自然資源、特産品、体験事業)などの情報をより効果的に広く発信するため、大宜味村産業まつり及びPRイベントを開催し、交流人口の増加を促進する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	7,505	13,811	1,650	1,650	7,706
	(b) 予算現額	6,790	11,781	1,650	1,650	7,310
	(c) 増減額(b-a)	▲ 715	▲ 2,030	0	0	▲ 396
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	6,790	11,781	1,650	1,650	7,310
	B. 執行済額	6,590	11,781	1,650	1,650	7,310
	うち交付金充当額	3,792	9,424	1,320	1,320	5,848
	次年度繰越額	-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)	97.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施し、活動目標及び成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。減額した396千円については、事業実績に伴い補正にて減額した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
産業まつり誘客イベント開催支援	目標	( 3イベント )	( 3イベント )	( 3イベント )	( 3イベント )
	実績	3イベント	3イベント	3イベント	3イベント
PRイベント開催支援	目標	( )	( )	( )	( 1イベント )
	実績				1イベント
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業まつり: 誘客増のための、①ステージイベント→大宜味村特産品セリ体験を実施。②会場活用イベント→子供たちを対象とした木工体験や、重機の操作などを体験できる「商工会おしごと体験」を実施。③会場イベント→村産の作物を使用した「接木講習会」を実施した。④会場活用イベント→保育園生参加シーちゃんチームVSぶながやーチームリレー対決2017を実施した。</li> <li>PRイベント: 那覇市内のタイムスビルにて平成28年9月30日～10月2日の3日間、大宜味村PRイベント「大宜味村物産・観光と芸能フェア」を実施した。</li> </ul>				

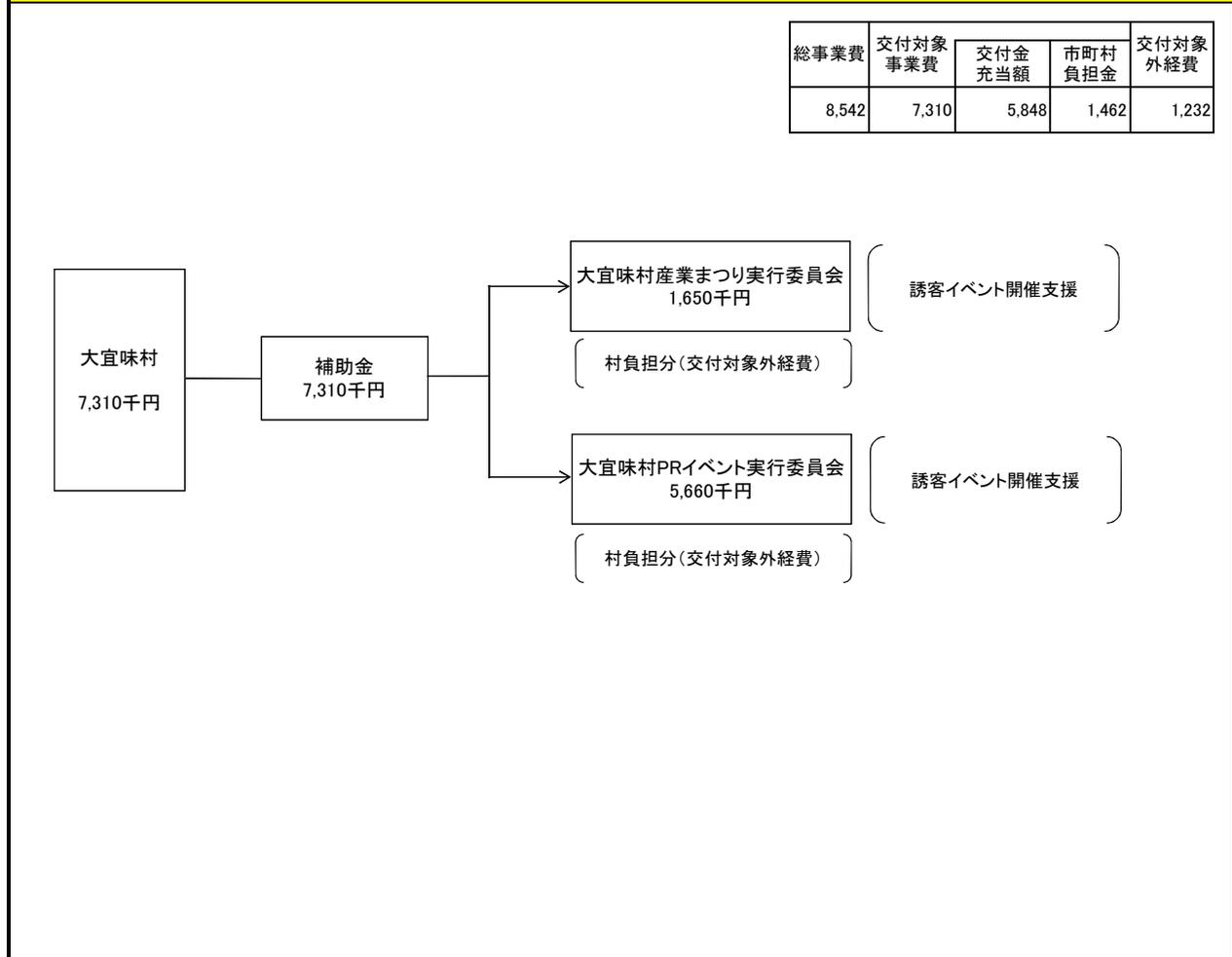
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
			産業まつり参加者数	( 2,500 )	( 5,500 )	5,000
	実績		5,000	3,500	5,500	
PRイベント来場者数	目標	( )	( )	( )	( 5,000名 )	( )
	実績				5,866名	

進捗状況説明  
 ・産業まつり: 前年より引き続き友好交流「市」「町」である、宮城県石巻市、福島県西会津町と今年度より湯沢市も招いての特産品販売をおこない、ステージイベントを目標に、村外来客者も多く来場した。また、前年度に引き続き子供たちを対象とした重機の操作などを体験できる「商工会おしごと体験」を実施し、ファミリー層の誘客を推進した。今年度は天候に恵まれ、二日間大盛況の中イベントを行うことができました。  
 ・PRイベント: 平成28年9月30日～10月2日の3日間那覇市内にあるタイムスビルにてPRイベントを実施し、成果目標の5,000名を上回る来場者が本フェアを訪れた。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>【産業まつり】</p> <p>①本村は大規模なイベント施設が無く、悪天候対策や、来場者駐車スペースの十分な確保が常に課題である。</p> <p>②大宜味村らしいイベントを定着させる事により、村外来場者の固定化を促すため、新イベントの定着化によるイメージ付けが課題である。</p> <p>③今年度は展示会場(コーナー)におけるシークワサーの紹介を前年より強化し、村産花きについても、生け花による展示を行い使用方法について有効的に発信できたが、その他の野菜や果実の展示についても積極的に行う必要がある。</p> <p>【PRイベント】</p> <p>①大宜味村の地元特産品や工芸、伝統料理、伝統芸能等が多く存在するが、インパクトが弱く、地元産業の活性化につながってこなかった、このため多くの来場者が見込める那覇市内において、大宜味村の特産品や芸能等をPRするイベントを開催した。</p> <p>②イベントは多くの来場者が訪れ出店者・出演者、来場者ともに概ね好評であったが、まだ交流人口の増につながっていない面が課題となっている。</p>	<p>【産業まつり】</p> <p>①前年度より改善がみられたが、会場周辺で十分な駐車スペースを確保することが困難なため、駐車場人員動員の増による、スムーズな誘導・駐車や、テナントレイアウトをより工夫し改善検討していく。</p> <p>②シークワサー苗等をメインとした、果実セリ体験など大宜味村らしいイベントを企画し、定着させることにより村外来場者の固定化を促す。</p> <p>③外部機関とも連携し、村産野菜や果実についても来場者へ知ってもらう絶好の機会との認識を共有し、展示PRを促す。</p> <p>【PRイベント】</p> <p>①村の魅力を広げ知ってもらうために、今回PRした物以外にも紹介できる特産品等を見つけ出す。</p> <p>②多くの人を誘客できたため、大宜味村を知ってもらい交流人口を獲得するために、今後も継続的にPRイベントを行っていく必要がある。</p>

今後の取り組み方針
<p>【産業まつり】</p> <p>①前年度より改善がみられたが、会場周辺で十分な駐車スペースを確保することが困難なため、駐車場人員動員の増による、スムーズな誘導・駐車や、テナントレイアウトをより工夫し改善検討していく。</p> <p>②シークワサー苗等をメインとした、果実セリ体験など大宜味村らしいイベントを企画し、定着させることにより村外来場者の固定化を促す。</p> <p>③外部機関とも連携し、村産野菜や果実についても来場者へ知ってもらう絶好の機会との認識を共有し、展示PRを促す。</p> <p>【PRイベント】</p> <p>①今後は年に4回程度、県外にてPRイベントの開催またはイベントに参加することで全国へ大宜味村のPRに取り組む。</p>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・費目の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は実行委員会への補助金であるため妥当であった。 ○予算規模については適正な規模となっている。 ○費目・用途については目的に即し、必要なものに限定されており適切なものとなっている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-②	大宜味村歴史と文化検証事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア
担当部署名	村史編集室	事業実施(予定)年度	平成26~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-1-(1)
事業内容	本村の地理的特性や歴史過程を経て醸成された固有の文化や沖縄戦などの歴史を再認識し、地域住民の共通理解と来訪者への情報発信を行うため、大宜味村史の検証と新たな分野(自然・沖縄戦・民俗・移民等)を編集し活用しやすい村史づくりを行う。					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )					
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	(a)当初予算額	14,976	20,113	9,432		
	(b)予算現額	13,158	8,336	9,678		
	(c)増減額(b-a)	▲1,818	▲11,777	246		
	(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)	13,158	8,336	9,678		
	B.執行済額	11,887	7,998	8,917		
	うち交付金充当額	9,509	6,398	7,133		
	次年度繰越額	-	-	-		
	執行率(%) (B/A)	90.3%	95.9%	92.1%		
予算の状況の説明	「移民・出稼ぎ編」の発刊ということで、専門に研究されている有識者への執筆料として謝礼金246千円を増額したが、執筆依頼ページ数の減や消耗品数量の減などにより予算残が生じた。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)	達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度
	「移民・出稼ぎ編」編印刷 300部	目標	( 300部 )	( )	( )	( )
		実績	300部			
		目標	( )	( )	( )	( )
		実績				
		目標	( )	( )	( )	( )
実績						
達成状況説明	・村史編集委員会2回、移民・出稼ぎ専門部会を4回開催し、その中で「移民・出稼ぎ編」の構成や編集方針などを検討・作業を実施して300部発刊することができた。					
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	「移民・出稼ぎ編」に係る情報提供冊子の完成	目標	( )	( 完成 )	( )	( )
		実績		完成		
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )
		実績				
進捗状況説明	・「移民・出稼ぎ編」発刊に向けて編集委員会議2回、移民・出稼ぎ専門部会を4回開催し、海外移民名簿を始め各種史料の調査・編集作業を行うと同時に、第6回世界のウチナーンチュ大会の開催に際して、本村出身関係者の方々からアンケートや写真の寄贈があり、掲載することができた。成果目標である300部を発刊することができた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・「移民・出稼ぎ編」の発刊ということで、海外移民調査については本来海外調査に向き移民された1世や2世以降の村出身関係者へ聞き取りを行うなどの調査を実施することが望まれたが、時間的制限、現体制では実施が困難であった。そのため、移民研究における有識者の方に専門部会委員を依頼し、調査にあたる指導や多数の史料の提供により調査・編集することができた。</p> <p>また、第6回世界のウチナーンチュ大会の開催に際して、本村出身関係者の方々からアンケートや写真の寄贈があり、掲載することができた。</p> <p>推進上の課題としては、有識者との人的調整、本来の情報の整理、分析に時間を要する等の課題があった。</p>	<p>・本村へ訪れる観光客の歴史文化に対する関心度は高く、より詳細な情報・専門的な知識が求められているが、それに十分に応えるだけの資料収集が進んでいない。</p> <p>・調査、編集作業においては時間と専門知識を要する上に、より詳細で多くの正確な資料収集が求められる。更には分野ごとの資料を検証・確認する必要もあり、編集委員・専門部会委員や地域の歴史文化に詳しい村民の方などに協力していただき、調査・資料収集を行う必要がある。</p>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<p>・有識者との調整、資料収集や分析等にかかる情報量の確認や整理など、多くの時間を有することが確認されたことから、分野を一つに絞って短期完了を目指した事業実施の方法をするのではなく、中期にわたる事務調整・編集等を進める。これにより、時間的課題が幾分改善され、さらには、正確かつ内容の充実した情報の作成が可能となる。これまで「戦争証言集」、「シマジマ本編」や「移民・出稼ぎ編」などの発刊を行ってきたが、引き続き、分野別の調査・編集を進めると同時に、村の情報発信ツールとして活用し本村の観光振興に繋げていく。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)							
			総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
			8,917	8,917	7,133	1,784	
大宜味村 8,917千円	報酬 3,360千円	嘱託員2人分 3,360千円	〔 嘱託員2人分の報酬 〕				
	共済費 496千円	嘱託員2人分 496千円	〔 嘱託員2人分の社会保険料 〕				
	報償費 246千円	移民・出稼ぎ専門部会謝礼金・執筆料 246千円	〔 移民・出稼ぎ専門部会謝礼金・執筆料 〕				
	需用費 4,621千円	事務用品 複写機カウンター料 181千円	〔 事務用品・複写機カウンター料 〕				
		株式会社 丸正印刷 4,439千円	〔 「移民・出稼ぎ編」発刊300部 〕				
使用料及び賃借料 194千円	株式会社 ジムキ文明堂 194千円	〔 コピー機リース料 〕					
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明				
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○嘱託員の採用については、公募により行っており、適正であった。</p> <p>○事業内容については予算規模は適正であった。</p> <p>○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>				
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。					
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。					
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					

市町村名 大宜味村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③ 大宜味村観光周遊ルート形成整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア
担当部署名	企画観光課	事業実施(予定)年度 平成24~平成30年度	国際的な沖縄観光ブランドの確立
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容 観光周遊ルートの一体的な形成を図るため、主要拠点である平南川の上流において、避難道の整備をはじめ環境整備を行う。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )

		25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	-	132,001	-	105,615	8,090
	(b) 予算現額	-	47,513	-	91,767	7,915
	(c) 増減額(b-a)	-	▲ 84,488	-	▲ 13,848	▲ 175
	(d) 繰越額	-	-	21,199	-	-
	A. 計(b+d)	-	47,513	21,199	91,767	7,915
	B. 執行済額	-	26,314	17,291	89,121	7,614
	うち交付金充当額	-	21,051	13,832	71,297	6,091
	次年度繰越額	-	21,199	-	-	-
	執行率(%) (B/A)	-	55.4%	81.6%	97.1%	96.2%
	予算の状況の説明	減額175千円については入札残によるものである。不用額301千円については委託の実績によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
地形測量の実施	目標	( 測量実施 )	( )	( )	( )
	実績	測量実施			
必要な整備の検討(基本計画)	目標	( 検討会4回 )	( )	( )	( )
	実績	検討会4回			
達成状況説明	平南川上流において、地形の測量を実施し、環境整備のありかたや活用のありかたについて4回の検討委員会を開催した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
		基本設計の完成	( )	( 基本設計の完了 )	( )	( )
		実績		基本設計の完了		
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )
	実績					

進捗状況説明 村内の関係者による検討委員会を4回開催し、平南川上流における環境整備のありかたや活用のありかたを決めていった。また、地形を測量し検討委員会で話し合われた内容を踏まえた基本設計を行った。

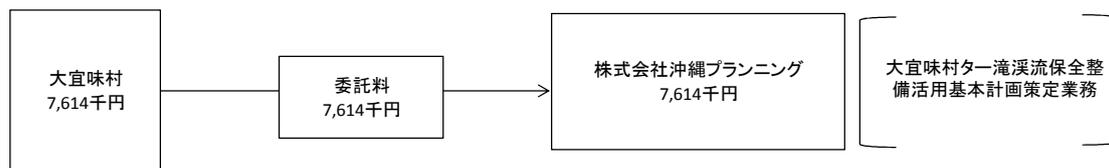
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>平南川上流では多くの人々が訪れる観光地となっているが、増水等による災害が発生した経緯もあることから、安全に利用するため、現地踏査や課題の整理をもとに平南川上流の周辺環境の計画方針を定めた。</li> <li>自然の環境を残しつつ、安全利用のためにどこまで整備していくか。また、どのような利用規制ができるかが大きな課題となった。</li> <li>また、平南川上流を活用し地域経済に好影響を与えるにはどのようにしていくかの声も聞かれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平南川上流に手を加えることで、より災害が起こりやすくなる危険性もあることから、現在の地形を活かした整備を行う必要がある。</li> <li>悪天候時の利用を控えるよう呼びかけることにより、増水時における事故を未然に防ぐ取り組みや、平南川を安全に利用するための装備等の注意喚起が必要である。</li> <li>平成27年度に整備された平南川駐車場の管理をするとともに、上流域における安全利用も注意喚起していく必要がある。</li> <li>現在利用者は平南川上流部のみを利用し、村内を周遊できてない状況である。このため、利用者を集落内に誘客する仕組みづくりが必要である。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・増水時に一時的に避難できる場所を整備するとともに、災害時には救助に入りやすいような救助道の確保を行う。  
 また、緊急時に利用者に注意喚起ができるよう防災無線の設置を検討している。  
 ・平南川上流部へきた利用者を村内へ周遊させるため、平南川駐車場にて村観光情報の周知・広報活動を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,614	7,614	6,091	1,523	0



資金の流 れの点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であった。 ○不用額は事業費の約7%であることから適正な規模であった。 ○費用・用途については額の確定時において検査、確認しており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	環境保全・美化推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-(ア)
担当部課名	建設環境課	事業実施(予定)年度	平成28年度~32年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				生物多様性の保全
				Ⅲ-1-(1)

事業内容 地域住民や観光客の安全確保及び貴重な野生生物(ヤンバルクイナ等の天然記念物)の保護を図るため、野良犬、野良猫、ハブ対策として環境保全の作業員による保護・捕獲器の設置・回収を行う。

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	6,069				
	(b) 予算現額	4,575				
	(c) 増減額(b-a)	▲ 1,494				
	(d) 繰越額	-				
	A. 計(b+d)	4,575				
	B. 執行済額	4,228				
	うち交付金充当額	3,382				
	次年度繰越額	-				
	執行率(%) (B/A)	92.4%				
予算の状況の説明	予算については賃金職員の雇用期間短縮による所要額を減額したためと備品購入費の入札残による減額となっている。執行率においては92.4%となっており、予算執行において適正だったと考える。					

活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
賃金作業職員の配置(2人)	目標	( 2人 )	( )	( )	( )
	実績	2人			
各対策保護・捕獲器の設置 (ハブ:30台、犬:3台、猫:10台)	目標	( ハブ30台 犬3台 猫10台 )	( )	( )	( )
	実績	ハブ30台 犬3台 猫10台			
達成状況説明	観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へ、保護・捕獲器(ハブ・犬・猫)を設置したことにより、ハブ・犬・猫を保護・捕獲し事業を実施することができた。				

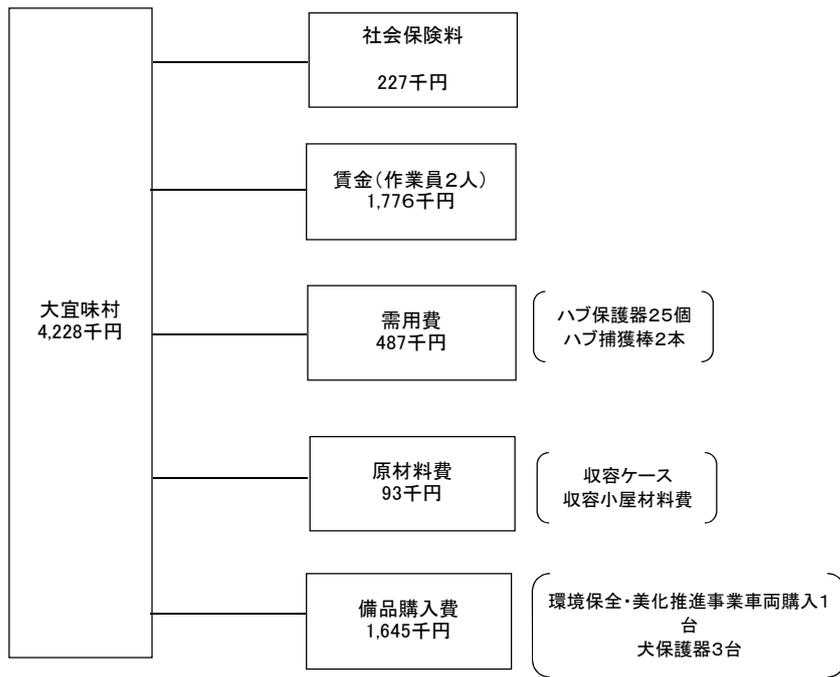
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
			目標	( )	( 0件 )	( )
ハブ咬症被害の未然の防止	実績	/	2件			/
	目標	( )	( )	( )	( )	( )
実績	/				/	

進捗状況説明 観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へ、保護・捕獲器(ハブ・犬・猫)を設置したことにより、ハブ7匹を駆除し、犬10匹、猫15匹を保護・捕獲した。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へ、保護・捕獲器(ハブ・犬・猫)を設置した。ハブの発生及び生息区域の拡大により継続して捕獲し増大防止に努める。野良猫についても、繁殖が活発で生息数が増大しているため増大防止のため積極的に保護・捕獲し、観光客及び地域住民の安全確保、野生生物の保護に取り組む。</p>	<p>地域住民への聞き込み調査を積極的に行い、保護・捕獲器(ハブ・犬・猫)を設置箇所を増やしていく。猫について行動範囲が広いため個体調査を行い、保護・捕獲していく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>継続して、ハブ生息地域の駆除及び野良犬、野良猫を保護・捕獲等を重点的に行い、地域住民、観光客の安全確保を行い、野生生物の保護に努める。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,247	4,228	3,382	846	19



資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	<p>○賃金職員の採用については、村の規則に準じ採用した</p> <p>○予算規模については、事業内容から適正な規模である。</p> <p>○費目・使途については、事業実施に必要な不可欠なものであり、計画・支出等に関する書類により確認・適正である。</p>
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	学習支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖繩振興基本方針該当箇所
				確かな学力を身につける教育の推進
				Ⅲ-3-(1)

事業内容 将来の大宜味村を担う大宜味村の児童生徒の基礎学力の定着を図る為、村内の小学校4校と中学校1校に学習支援員を配置する。

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	10,976	10,976	10,911	8,818	
	(b) 予算現額	10,976	10,931	10,911	8,802	
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 45	0	▲ 16	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計 (b+d)	10,976	10,931	10,911	8,802	
	B. 執行済額	10,910	10,928	10,891	8,670	
	うち交付金充当額	8,728	8,742	8,713	6,936	
	次年度繰越額	-	-	-	-	
	執行率 (%) (B/A)	99.4%	100.0%	99.8%	98.5%	
	予算の状況の説明	当初予算額提示後に学習支援員の社会保険料の精査を行った結果、予算減額として16千円を減額となっている。執行率においては98.5%となっており、予算執行において適正だったと考える。				

活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
小学校3名配置(低中高年各1名)	目標	( 4小学校×1人 )	( 4小学校×1人 )	( 4小学校×1人 )	( 1小学校×3人 )
	実績	4小学校×1人	4小学校×1人	4小学校×1人	1小学校×3人
中学校1名配置	目標	( 1中学校×1人 )	( 1中学校×1人 )	( 1中学校×1人 )	( 1中学校×1人 )
	実績	1中学校×1人	1中学校×1人	1中学校×1人	1中学校×1人
達成状況説明	・村内の小学校1校に3名、中学校1校に1名学習支援員を配置した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(25年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
			【28年度成果目標】 全国学力調査での全国平均との差 小学校 全教科 5ポイント	目標	( -6ポイント )	( 5ポイント以内 )	( 5ポイント以内 )
	実績	/	+6ポイント	-2.0ポイント		/	
【28年度成果目標】 全国学力調査での全国平均との差 中学校 全教科 5ポイント	目標	( -18ポイント )	( 5ポイント以内 )	( 5ポイント以内 )	( )	( )	
	実績	/	-12ポイント	-8.8ポイント		/	
進捗状況説明	・全国学力調査の全国平均点との差について、小学校においては全国平均との差が-2.0ポイントであり、成果目標である全国平均との差5ポイント以内に収まっているが、中学校においては全国平均との差が-8.8ポイントとなっており、成果目標である全国平均との差5ポイント以内に達していない。 ・個別の指導など細やかな支援をおこなっていることから改善は見られるが、80名弱の生徒人数に対して学習支援員1名の配置のため、支援できる範囲が限られてしまい全体の支援が難しく、目標値まで達成できていない。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校においては全教科平均点が全国平均と比べ2.0ポイント下回った結果となっており、平成25年度の全国平均から6ポイント下回っていた状況から改善されている。</li> <li>・中学校において、全教科平均点が全国平均を下回っているが、全国平均との差が平成25年度 -18ポイント、平成27年度 -12ポイント、平成28年度 -8.8ポイントと改善傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校は全国学力調査において全国平均との差が縮まっているが、開校初年度ということもあり体制作りが手さぐりの部分が多かった。生徒人数の増に合わせて学習支援員の増員をすることで平成28年度においても目標を達成できている。</li> <li>・中学校は改善傾向にあるものの、まだまだ全国平均や県平均との差が大きいのは授業内での取りこぼしが多く、理解しないまま授業が進んでいる生徒がいる現状が原因だと考えられる。授業内で取りこぼしを減らすために個に応じた支援の拡大が必要である。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校においては成果目標を達成していることから、1校あたりの支援員配置人数が適正であり、今後の学習支援についても維持・向上を図る。</li> <li>・中学校は平成28年度の成果目標の達成状況から、支援員配置人数を増やすことで支援範囲を広げ、授業内での取りこぼしを減らす。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	8,670	8,670	6,936	1,734	0
<pre> graph LR     A[大宜味村 8,670千円] --&gt; B[賃金 7,568千円]     A --&gt; C[共済費 1,102千円]     B --&gt; D[学習支援員(4名) 7,568千円]     C --&gt; E[社会保険料(4名) 1,102千円]     D --- F["(小学校3名 中学校1名)"]     E --- G["(小学校3名 中学校1名)"] </pre>					
資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については不用額は132千円であり、適正な規模であったと考えている。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要な支援員の賃金と共済費を支払った。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

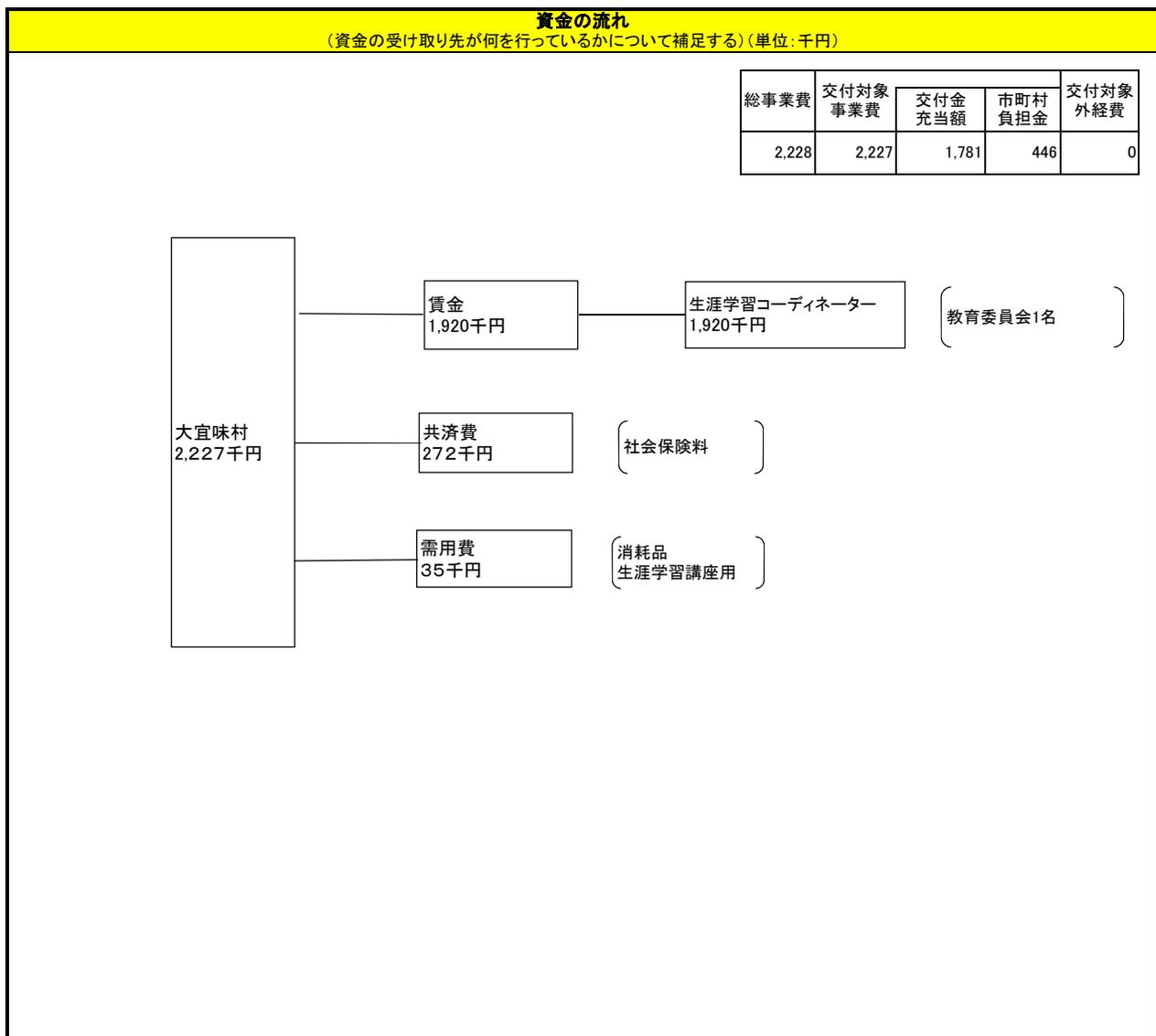
市町村名		大宜味村					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	地域支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進		
事業内容	学校と地域の連携を充実させ、不登校やいじめ等に対して生徒を支援する地域支援員を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	(a) 当初予算額	2,195	2,195	2,182	2,216		
	(b) 予算現額	2,197	2,186	2,195	2,200		
	(c) 増減額 (b-a)	2	▲ 9	13	▲ 16		
	(d) 繰越額	-	-	-	-		
	A. 計 (b+d)	2,197	2,186	2,195	2,200		
	B. 執行済額	2,197	2,186	2,195	2,128		
	うち交付金充当額	1,757	1,748	1,756	1,702		
	次年度繰越額	-	-	-	-		
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	96.7%		
予算の状況の説明	当初予算提示後に学習支援員の社会保険料の精査を行った結果、予算減額として16千円の減額となっている。執行率においては96.7%となっており、予算執行において適切だったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	地域支援員配置数 村内中学校1人	目標	( 1中学校×1人 )	( 1中学校×1人 )	( 1中学校×1人 )	( 1中学校×1人 )	
		実績	1中学校×1人	1中学校×1人	1中学校×1人	1中学校×1人	
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	・地域支援員を中学校に1名配置しており、不登校生徒の登校支援や登校後の校内学習・活動を主にサポートすることができる。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	支援対象者に対するアンケートを行う「支援の効果は感じられたか」この設問に対して「効果があったと思う」の回答率 60%以上	目標	( )	( 60% )	( 60% )	( )	( )
		実績		100%	100%		
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	・中学校に配置し、不登校生徒を主にサポートしている。地域支援員の働きかけがあることによって登校率は改善傾向にあり、学校内で生徒からの相談を受けるなど信頼関係を築くことができる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援員として、外部機関(教育委員会、住民福祉課)への情報連携を行う機会を設けることで、諸問題等に早急に対処できる体制となっている。</li> <li>・現在、地域支援員を配置している中学校の他に、平成28年度に統合となった小学校において、児童間でのトラブルが増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要保護児童対策地域協議会等において、地域支援員からの情報や、地域支援員の生徒への対応が評価されている。</li> <li>・小学校において平成27年度以前は複式学級等の規模の小さな学級であったが、統合により学級の人数が増えたことによって、競争意識の向上等のメリットがあった反面、児童間でのトラブルが増えていると考えている。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援員と教育分野(教育委員会、教育相談員)、福祉分野(福祉課、児童相談所)との連携は今後も引き続き行い、必要に応じて要保護児童対策地域協議会を開き、児童生徒を支援していきける体制を維持する。</li> <li>・現状の児童間のトラブルの解決と今後の中学校進学時の児童生徒間の関係づくりの支援を行うことを目的に、中学校においての支援は継続しながら、支援の範囲を小学校まで広げる。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	2,128	2,128	1,702	426	0
<pre> graph LR     A[大宜味村 2,128千円] --&gt; B[賃金 1,856千円]     A --&gt; C[共済費 272千円]     B --&gt; D[地域支援員(1名) 1,856千円]     C --&gt; E[地域支援員(1名) 272千円]     D --- F[中学校1名]     E --- G[中学校1名]   </pre>					
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については不用額は73千円であり、適正な規模であったと考えている。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要な支援員の賃金と共済費を支払った。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名		大宜味村					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	「ぶながやの里」地域人材育成支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-イ		
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生涯学習社会の実現		
事業内容	各社会教育団体の生涯学習活動及び青少年の学校外活動における学習機会の拡充を図り、その活動を通して本村の自然や文化、社会への基礎的な興味関心を培い、地域リーダーとなる人材の育成を図るため、生涯学習活動事業を展開する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	(a) 当初予算額	2,285	2,285	2,517	2,306		
	(b) 予算現額	2,285	2,285	2,517	2,261		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 45		
	(d) 繰越額	—	—	—	—		
	A. 計 (b+d)	2,285	2,285	2,517	2,261		
	B. 執行済額	2,230	2,201	2,459	2,227		
	うち交付金充当額	1,784	1,760	1,967	1,781		
	次年度繰越額	—	—	—	—		
	執行率 (%) (B/A)	97.6%	96.3%	97.7%	98.5%		
予算の状況の説明	不用額があるが、消耗品によるものであるため、適切に執行されている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	生涯学習講座 10回開催	目標	( 10回 )	( 10回 )	( 10回 )	( 10回 )	
		実績	10回	10回	11回	12回	
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	・生涯学習講座(青少年向け6回、成人者向け6回、計12回)講座受講者数合計226名。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(25年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	講座受講者数 120名	目標	( 100名 )	( 100名 )	( 120名 )	( 120名 )	( )
		実績		202名	351名	226名	
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	・生涯学習講座(青少年向け6回、成人者向け6回、計12回)講座受講者数合計226名。 ・前年度に比べ講座数が増え成人者の参加が増えた。しかし、小学校の統合により学校でのクラブ活動が盛んになり、青少年向け講座と日程が重なることが多くなり参加者数が減少した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・青少年は基本的に休日を活用し講座を開催しているが、小学校の統合に伴ったクラブ活動の充実により、休日のイベント等日程の調整がさらに難しくなり課題となった。各種団体等成人者向け講座においても同様で、他行事等の日程調整(開催日、時間など)が必要であった。参加者のニーズに応じた講座開催を展開していく為、講座内容も含めたアンケート調査を講座参加者に実施した。</p>	<p>・講座開催の時間帯、開催日、講座内容など、アンケートの集計を参考にし、受講者の要望に対応していく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・青少年の学校外活動においては、日程を検討し講座を開催予定。年6回          ・各種団体等成人者向け講座は、アンケートの結果を参考に開催日時、内容等の調整、新たに青少年の活動と合わせた講座を展開していく予定。(年6回)</p>		



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○大宜味村生涯学習コーディネーター配置要綱に基づき採用した。            ○予算規模及び事業内容については適正な規模であった。            ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-④ 児童生徒等県外派遣支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ
担当部署名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度 平成26~33年度	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容 大宜味村に在住する児童・生徒(小学生・中学生・高校生)に対し、県外で開催される運動競技又は文化関係の大会に、予選及び審査等の結果、代表として参加する際の派遣費用を補助する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	846	1,122	1,075		
	(b) 予算現額	846	722	500		
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 400	▲ 575		
	(d) 繰越額	-	-	-		
	A. 計 (b+d)	846	722	500		
	B. 執行済額	256	654	359		
	うち交付金充当額	204	523	287		
	次年度繰越額	-	-	-		
	執行率 (%) (B/A)	30.3%	90.6%	71.8%		
	予算の状況の説明	予算額については、当初予算での派遣見込額を下回る見込みとなった為、減額をおこなった。 不用額については、年度末に見込んでいた派遣人数に対し、各大会等の予選及び審査等の結果、県外派遣獲得が得られなかった為、不用となった。				

活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
児童生徒への県外派遣支援	目標	( 35名 )	( 42名 )	( 派遣費の一部を補助 )	( )
	実績	13名	40名	22名	
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	第47回九州中学校ソフトテニス競技大会(宮崎県)2名派遣 第14回九州地区中学生ソフトテニス選抜研修大会(熊本県)2名派遣 第21回九州小学生ソフトテニス選手権大会及び第11回九州小学生ソフトテニス研修大会(鹿児島県)8名派遣 第31回九州ジュニア選抜インドアソフトテニス大会及び沖縄選抜宮崎遠征(熊本県)2名派遣 第52回全九州高等学校レスリング新人選手権大会(長崎県)1名派遣 第28回都道府県対抗全日本中学校ソフトテニス大会及び第32回ミスノカップ全国ジュニア選抜ソフトテニス大会(三重県)2名派遣 第23回ヨネックス杯九州中学校ソフトテニス研修大会(佐賀県)5名派遣 当初の派遣見込額を下回ったが、対象となった児童生徒を派遣するという目的は達成できていると考えている。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
			( )	( )	( )	( )	
	派遣対象生徒の大会派遣率100%	目標	( )	( 100% )	( 100% )	( 100% )	( )
		実績		100%	100%	100%	
【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )	
	実績						

進捗状況説明 県外への大会派遣を行うことで、児童生徒が他都道府県の選手等との活発な交流が図られることにより、貴重な経験を得る事が出来ていると考えている。また島嶼列島である本村にとって、大会関係者及び保護者にも大きな経済的負担軽減に繋がっており、継続的に事業を実施していくことが必要であると感している。  
今後も事業の周知を行いながら、なるべく多くの対象児童生徒に利用してもらえるよう努めていく。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	事業実施以前よりも保護者等への経済的負担が軽減されており、事業を継続し毎年度実績を積むことで関係者及び対象者への認識も広がっていきと考えている。 しかしながら、対象者の派遣獲得には予選及び審査等の結果が伴うものなので、見込が難しい為、予算調整で苦慮している。	前年度に引き続き広報誌等での事業周知及び関係者への情報伝達を行う必要があると考えており、継続して派遣できる事業の体制は維持していきたい。
今後の取り組み方針		
これまでにも行ってきた広報誌等での事業情報周知に努め、村内各学校及び保護者等へ呼びかけまたは事業内容の情報通知を行うことを継続したいと考えている。 更に派遣の対象となる大会等の把握や、学校等との派遣に伴う情報の共有を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	719	359	287	72	360
資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、交付要綱に基づいた対象となっている。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合ったものと考えている。		
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は対象費用の5割で妥当としている。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的に即した必要なものと考えている。		

市町村名 大宜味村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑤	学校教育ICT環境整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	H25~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				確かな学力を身につける教育の推進
				Ⅲ-3-(1)

事業内容 大宜味村内の小学校・中学校において児童生徒が分かりやすい授業の実現や、情報活用能力の向上のため教育ICT環境の整備を行う。

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(a) 当初予算額	10,080	-	-	15,322
(b) 予算現額	9,600	-	-	15,322		
(c) 増減額(b-a)	▲ 480	-	-	0		
(d) 繰越額	-	-	-	-		
A. 計(b+d)	9,600	-	-	15,322		
B. 執行済額	9,503	-	-	13,268		
うち交付金充当額	7,602	-	-	10,614		
次年度繰越額	-	-	-	-		
執行率(%) (B/A)	99.0%	-	-	86.6%		
予算の状況の説明	平成28年度の備品購入において、予算計上時より入札額が下がり、入札残として不用額2,054千円となっている。					

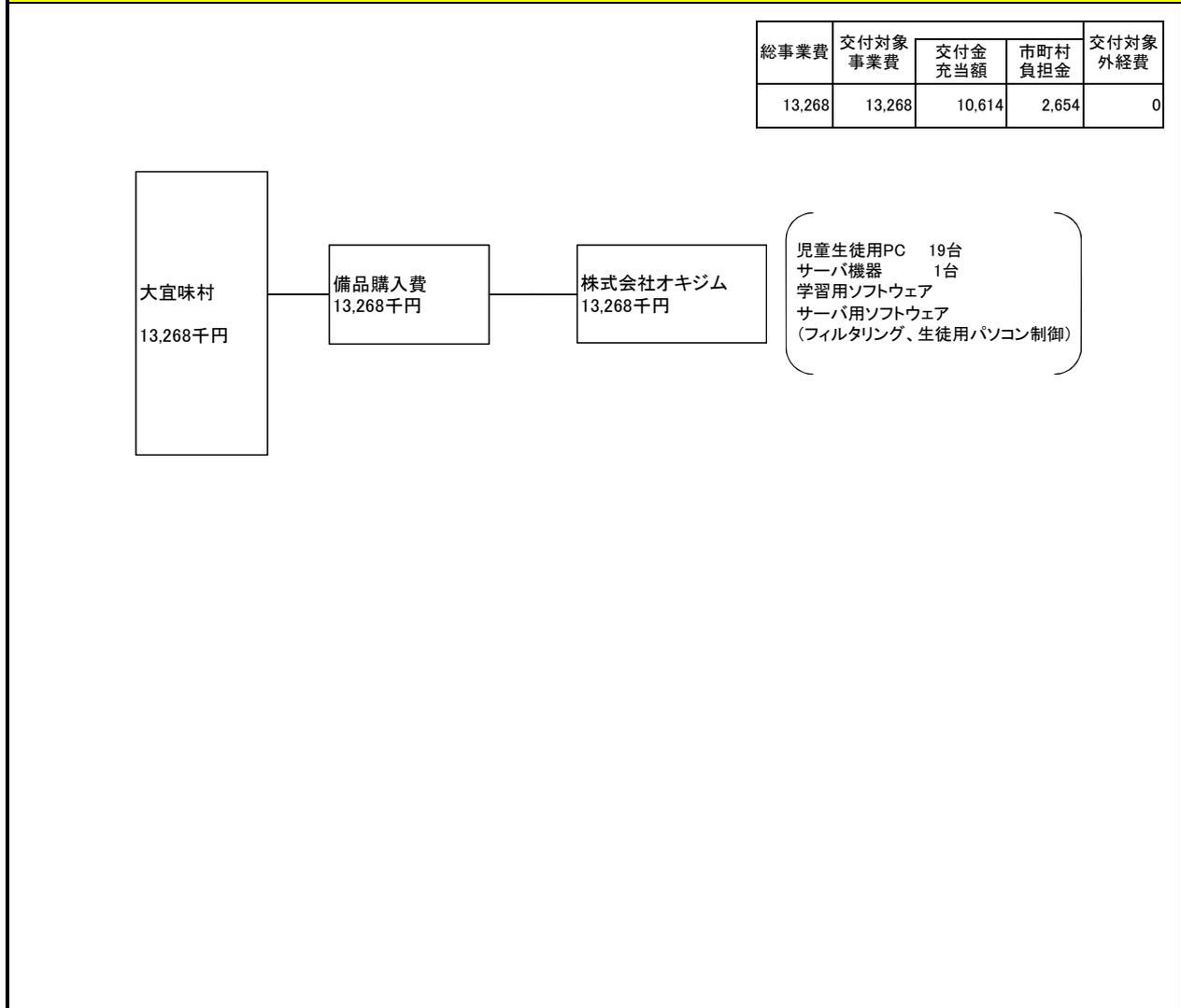
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
	・児童生徒用パソコン 19台 ・サーバー機器 1台 ・学習用ソフト(一式) ・サーバー用ソフト(一式) ・ネットワーク器機(L1,L2)(一式)	目標 ( 導入率 100% )	( )	( )	( )
	実績 導入率 100%				
		目標 ( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	当初目標としていた機器の導入は全て完了している。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(26年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
			・小学校及び中学校のパソコン教室及び校内ネットワーク環境整備 ・学習ソフトによる学習に対する興味関心の向上→補修等の授業外でのパソコン教室の使用率(H26 43%→50%)	目標 ( 43% )	( 50% )	( )
	実績	/	56%		/	
	・インターネットの活用やパソコンを利用した意見表現の幅の拡大 ・ICT機器を用いたプレゼンテーションの機会の増(H26 4回→6回)	目標 ( 4回 )	( 6回 )	( )	( )	( )
	実績	/	8回		/	

進捗状況説明 授業外でのパソコン教室の使用率については大きく伸びていないが、今後教諭への活用方法の支援や、活用計画の立案によって、活用機会の向上を目指す。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・小学校の統合、中学校の移転により、当初パソコン教室にパソコンの設置を行っていたが、授業支援や学習支援のソフトウェアが無く、調べ学習をする際にだけ使用していた。また、パソコンの台数においても生徒人数にあわせておらず、1学級で使用する際に2人で1台を使用する体制となっていた。H28年度の整備において授業支援ソフトでの生徒への指示や画面共有が可能になり、生徒1人に対して1台のパソコンが操作できる環境となった。</p>	<p>・生徒に対するパソコンの台数は整備できているが、ソフトウェアの活用については課題があり、授業支援ソフトの使用において教諭内で活用できる・できないで二分しているため、活用できない教諭向けに支援が必要である。 ・学習支援ソフトについても初めての導入であるため、児童生徒の活用率が高くないため、活用方法等の検討が必要である。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・教諭向けに授業支援ソフトの活用や、ネットワーク機器の導入によって使用可能となった普通教室でのインターネットの活用の方法について研修等を開き、授業内で積極的にICT機器の活用を行い、質の高い授業の実施ができるようにする。 ・学習支援ソフトについて、放課後や夏季休業中の補習等の取組において活用できるよう使用方法の教示と、授業内でも使用することを学校へ提案する。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○予定価格は複数業者からの見積を参考にし、指名競争入札を実施した。 ○予算規模については入札額が大きく下がり、不用額は2,054千円となっており、見積段階において予算の精査が必要であった。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要な備品に対して支払った。</p>
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-① 観光道路及び危険箇所減災対策事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ
担当部課名	建設環境課	事業実施(予定)年度 平成27～平成31年度	災害に強い県土づくりと防災体制の強化
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(2)

事業内容 安心安全な観光道路の確保と危険箇所の減少を図るため、村内の観光道路や危険箇所周辺の生い茂った雑木や高木の伐採を行う。

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他

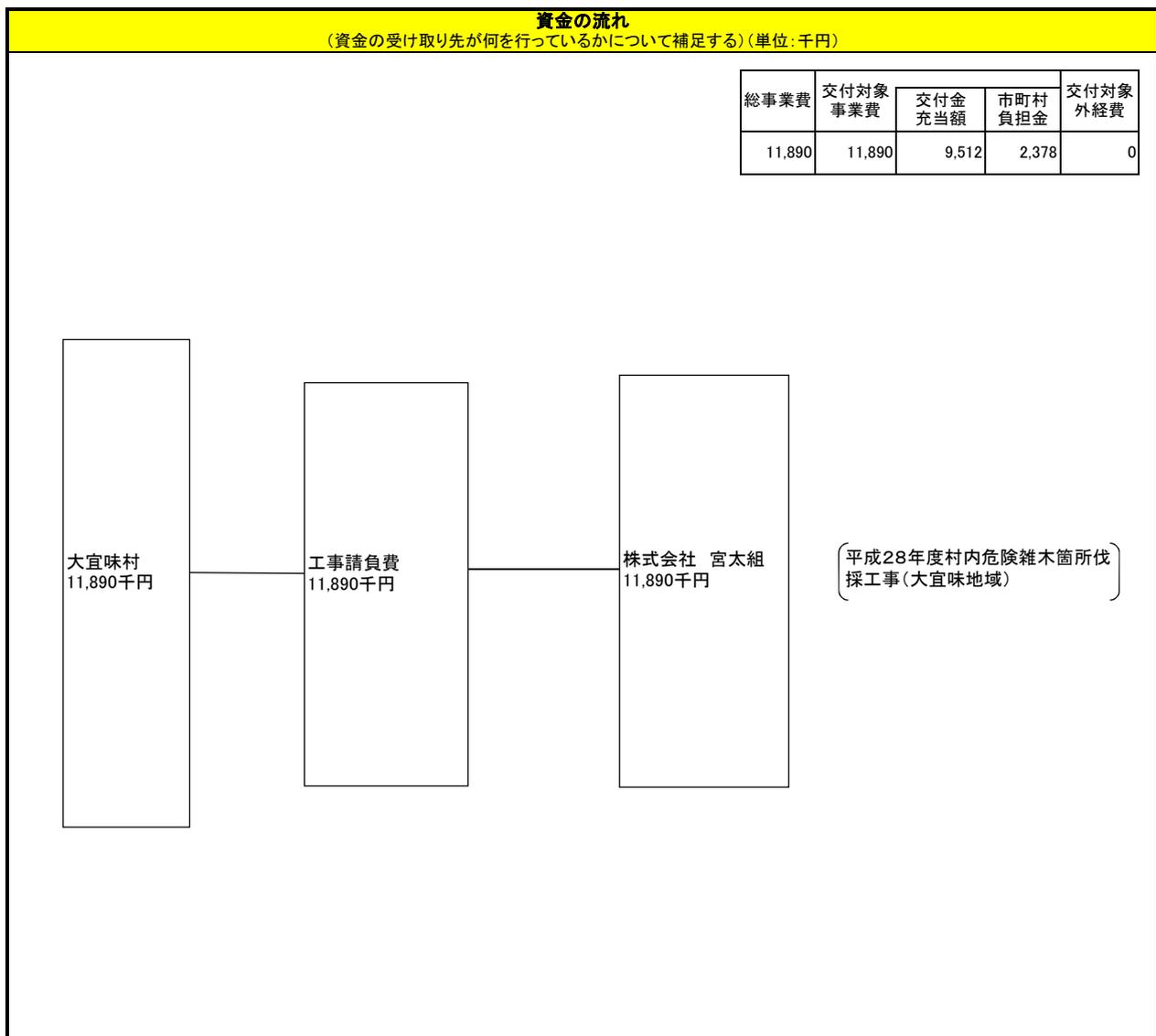
		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	23,449	14,000			
	(b) 予算現額	23,287	14,000			
	(c) 増減額(b-a)	▲162	0			
	(d) 繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)	23,287	14,000			
	B. 執行済額	20,911	11,890			
	うち交付金充当額	16,728	9,512			
	次年度繰越額	-	-			
	執行率(%) (B/A)	89.8%	84.9%			
予算の状況の説明	不要額2,110千円については、危険箇所伐採工事の入札残額である。					

活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
		伐採工事の実施(大宜味地区)	目標 ( 伐採工事実施 )	( 伐採工事 )	( )
	実績	実施	実施		
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	・平成28年度対象箇所の大宜味地域の伐採箇所を全て行うことができ、観光道路危険箇所の減災対策ができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(27年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
		伐採工事の実施率	( )	( 25% )	( 50% )	( )	( )
				25%	50%		
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
	実績						

進捗状況説明 大宜味地区の観光道路危険箇所周辺の高木・雑木大宜味地域の伐採箇所は全て行う事ができた。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本村は、グリーンツーリズム、トレッキング、民泊事業が盛んで地域外からの訪問者も多く、安心安全な観光道路の確保と危険箇所への減少を図るため、雑木や高木の伐採を行った。伐採箇所について周辺住民への周知を十分に行い、希少動物の繁殖期を確認し環境省と調整を行った。</p>	<p>今後も伐採箇所については、周辺住民へ広く周知する。伐採時期については、希少動物等の影響を考慮して環境省と再度調整する。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>伐採箇所について、各区長、広報等を活用し周辺住民へ広く周知する。 伐採時期については、環境省等と協議(確認)を行い、時期を確定し行う。</p>		



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○工事業者については、一般競争入策で選定しており妥当であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○不用額については、伐採工事の金額が完了まで確定できなかったため改善が必要である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名 大宜味村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	結の浜安心安全な環境づくり整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度 平成26年～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 Ⅲ-10-(2)

事業内容 結の浜地区避難路からからの、避難者の一次避難所として、近隣高台へ芝生広場を整備する。また、災害時に結の浜付近国道を通行する車両の一次避難所として、芝生広場と連結する駐車場スペースの整備を行う。

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他(役務費手数料)

予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	26年度		27年度		28年度	
	(a)当初予算額	(b)予算現額	(c)増減額(b-a)	(d)繰越額	A.計(a+d)	B.執行済額
	28,000	28,000	0	-	28,000	2,268
				25,732	25,732	13,241
						51,889
						101,680
						56,017
						44,813
						-
						82.6%
予算の状況	(a)当初予算額	28,000	-	146,771	-	90,995
	(b)予算現額	28,000	-	153,773	-	67,808
	(c)増減額(b-a)	0	-	7,002	0	▲23,187
	(d)繰越額	-	25,732	-	101,884	-
	A.計(a+d)	28,000	25,732	153,773	101,884	67,808
	B.執行済額	2,268	13,241	51,889	101,680	56,017
	うち交付金充当額	1,814	10,593	41,510	81,344	44,813
	次年度繰越額	25,732	-	101,884	-	-
	執行率(%) (B/A)	8.1%	51.5%	33.7%	99.8%	82.6%
予算の状況の説明	予算については、主に法面の工法を見直したことでの工事費と、土地の不動産査定業務に伴う用地購入単価が下がったことで減額した。不用額については、未相続等により土地の購入が行えなかったため不用となっている。					

活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
用地購入(13筆 1,142.34m2)	目標	( 13筆 )	( )	( )	( )
	実績	6筆			
造成工事(駐車場、避難所)	目標	( 駐車場・避難所整備実施 )	( )	( )	( )
	実績	駐車場・芝生広場整備完了			
照明灯(3基)、防災サイン(2基)	目標	( 照明灯3基、防災サイン2基設置実施 )	( )	( )	( )
	実績	照明灯3基、防災サイン2基設置完了			
達成状況説明	用地の一部に関して、未相続のため土地の購入が完了していき、「土地使用承諾書」による土地利用を行っている。平成26年度に実施した「基本計画」「実施設計」に基づき、駐車場・芝生広場整備を行った。避難広場内に照明灯3基、防災サイン1基と、国道側避難広場入口に防災サイン1基の設置を行った。				

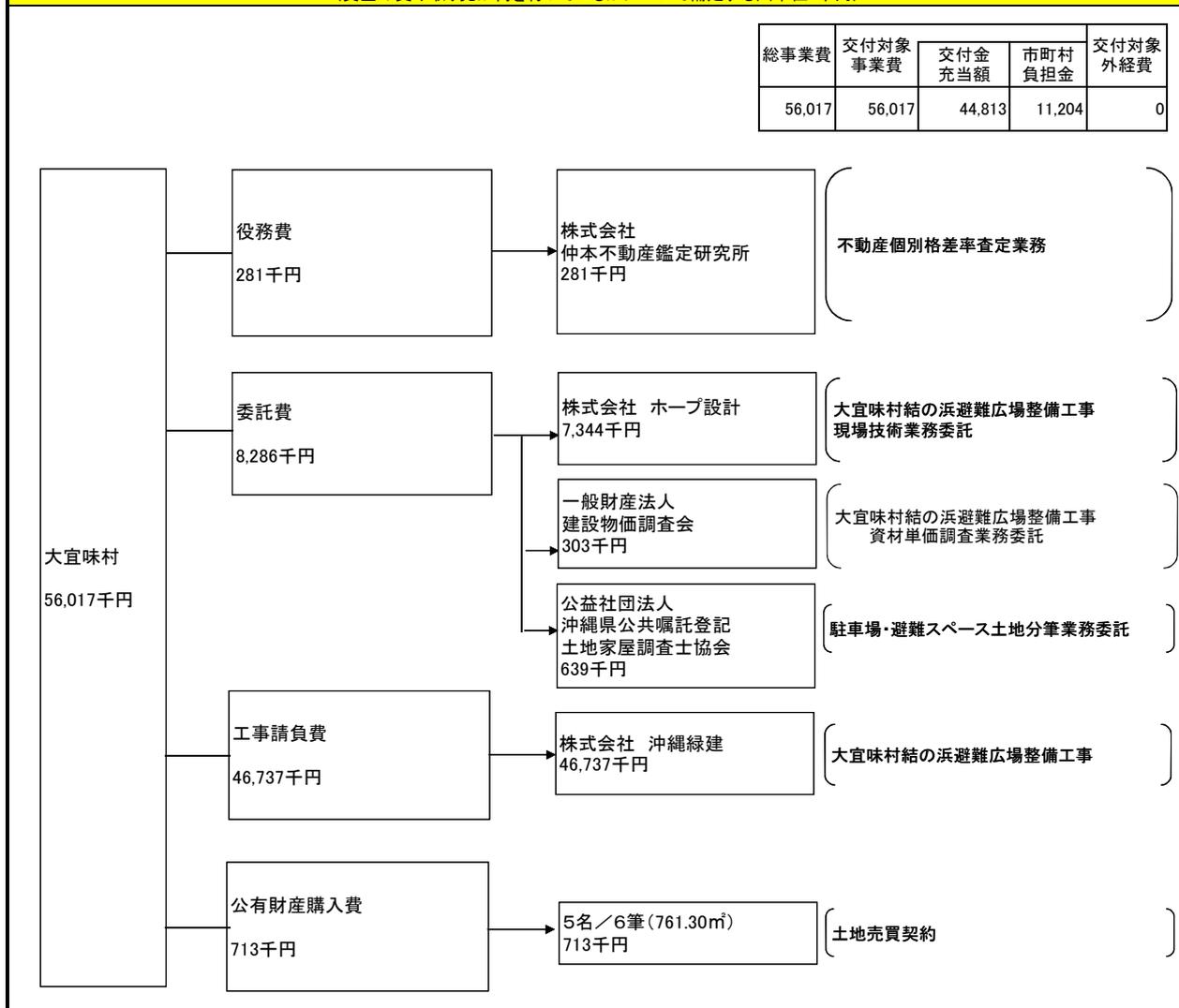
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
			( )	( )	( )	( )
避難所の整備に向けた用地の確保	目標	( )	( 13筆 )	( )	( )	( )
	実績		6筆			
避難所整備率	目標	( )	( 100% )	( )	( )	( )
	実績		100%			
進捗状況説明	用地の一部に関して、未相続のため土地の購入が完了していき、「土地使用承諾書」による土地利用を行っており、引き続き用地購入の手続きを行っている。避難広場については、平成29年3月より供用を開始しており、引き続き避難訓練等の支援を行っている。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	公有水面埋立事業により、新たに取得した平地である「結の浜」には、下水処理施設、村立診療所、企業支援賃貸工場、村営住宅、宅地分譲地、公園、小中学校、コンビニエンスストア、民間賃貸アパートが整備され、今後も施設整備等の計画があることから、定住・交流人口の増加が見込まれている。しかし、外海と面していることから、津波から避難するための、避難路(階段2路線)と一次非難広場(芝生広場・駐車場スペース)を整備した。平常時から、避難路を利用し、一次避難広場までの避難経路や避難にかかる時間を個々に把握する意識付けを行い、一斉避難訓練の支援を行う必要がある。	当該避難広場は、結の浜地区及び東シナ海が一望できる風光明媚な高所に位置しており、休日等には多くの利用者が見込まれるため、有事の際に安全な利用ができるように、常時からゴミの処分や、芝刈り、夜間照明灯のメンテナンス等の維持管理を定期的に行いたい。

**今後の取り組み方針**

整備が完成した避難路と避難広場の常時利用と、小中学校及び結の浜地区を対象とした一斉避難訓練を計2回実施する。  
また、「結の浜」地区への定住人口が増えていることから、防災・減災への啓発活動を行い自主防災組織の組織化支援を行っていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は指名競争入札で決定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、当初予算額より、23,287,000円減額し不用額が出てしまったが、入札残額や業務内容の見直しが必要となったこと、不動産評価額によるものなので、適正であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	防災監視カメラ整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度	平成28～平成29年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				災害に強い県土づくり事業
				Ⅲ-10-(2)

事業内容 防災・減災への取組として、有事の際の初期避難を迅速に行うため、村内河川の河口や、内海・外海を監視するための防災監視カメラの整備を行い、村のWEBにリンクさせることで、常に閲覧者がリアルタイムの情報を取得できるようにする。

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算額・執行額 【単位:千円】 〔「交付金」+「市町村負担」ベース〕	(a) 当初予算額	15,508				
	(b) 予算現額	14,640				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 868				
	(d) 繰越額	-				
	A. 計 (b+d)	14,640				
	B. 執行済額	13,584				
	うち交付金充当額	10,867				
	次年度繰越額	-				
	執行率 (%) (B/A)	92.8%				
	予算の状況の説明	防災監視カメラ整備事業にあたり、カメラ設置箇所の選定を行ない、実施設計委託を実施。平成28年度において監視カメラ3台・監視モニター2台の設置工事を実施。予算については、設計委託において入札残による減額をおこなった。また不用額については、設置工事における入札残による不用となっている。				

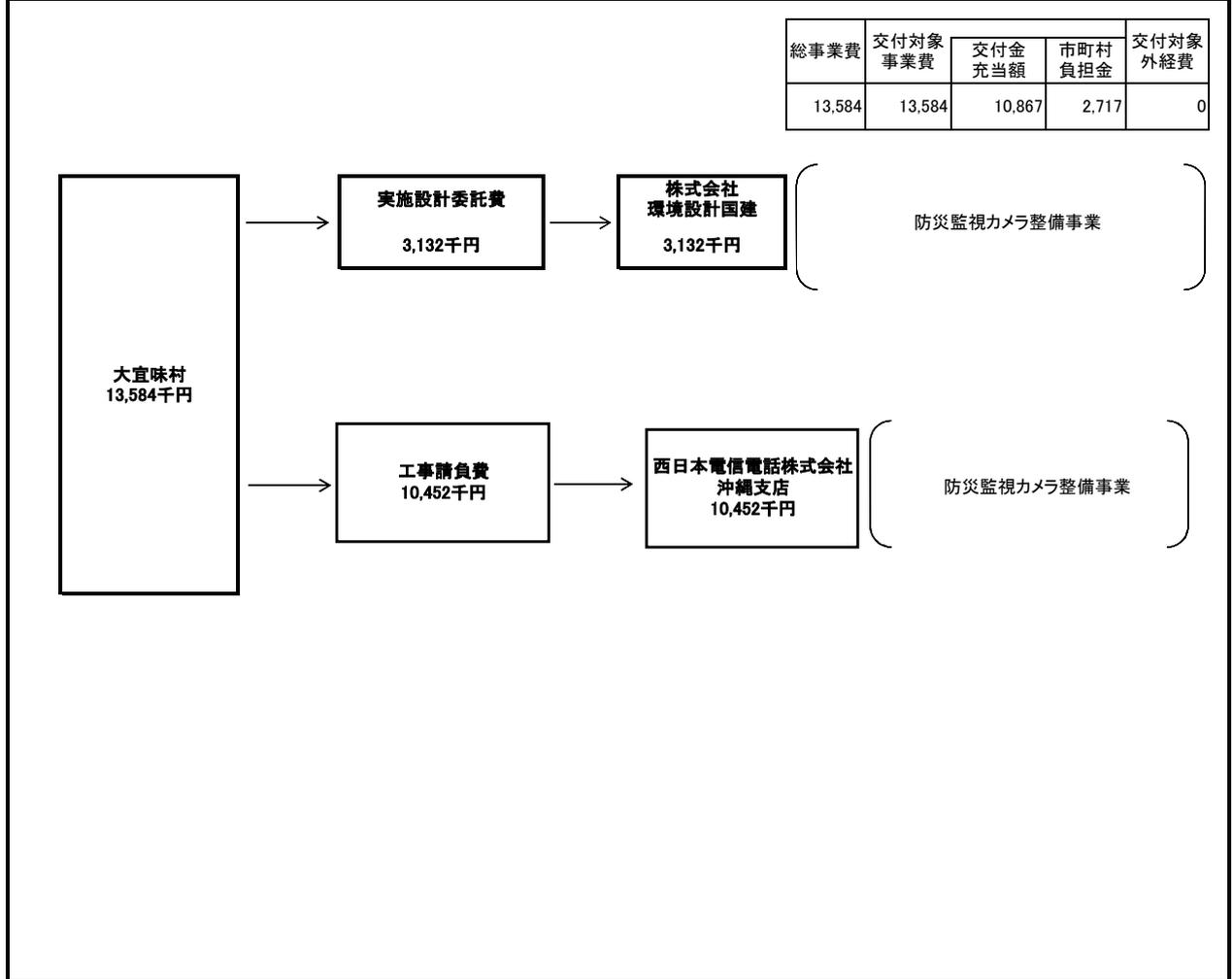
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
		防災監視カメラ設置調査設計の実施	目標 ( 防災監視カメラ設置調査設計の実施 )	( )	( )
	実績	防災監視カメラ設置調査設計の実施			
	防災監視カメラ整備工事の実施	目標 ( 防災監視カメラ整備工事の実施 )	( )	( )	( )
	実績	防災監視カメラ整備工事の実施			
達成状況説明	防災監視カメラ設置調査設計の実施を行い、平成28年度事業分の3台の防災監視カメラの整備を行なった。役場にて遠隔操作及び監視モニタリングが行なえる状況。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)		
		防災監視カメラ設置箇所の決定	目標	( )	( 設置箇所の決定 )	( )	( )	( )
			実績		設置箇所の決定			
		防災監視カメラ整備工事実施率50%(3台/6台)	目標	( )	( カメラ3台整備工事 )	( )	( )	( )
実績			カメラ3台					

進捗状況説明 沿岸・河川・河口・土砂災害警戒区域等付近を監視できるように場所の決定を行なった。場所の決定を行ない、平成28年度には監視カメラ3台を設置し、役場庁舎にてモニタリングが行なえる。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	大宜味村の防災・減災の強化に向けて、今回整備した防災監視カメラを災害時にスムーズに活用できるように操作訓練等を行なうようにする。	防災監視カメラにおいて、沿岸及び土砂災害警戒区域等を対象にし、一定方向を監視しているが、気象台において発令されるさまざまな警報にあわせて、カメラの向きを変えるなど監視場所の変更を行なうなど工夫が必要である。
今後の取り組み方針		
①平成29年度事業の防災カメラ3台の設置を行なう。 ②WEBを通して、内海・外海や河川の河口の状況をリアルタイムで取得することで、津波の際の初期避難が迅速に行える。 ③防災・減災対策への意識の向上が図られる。 ④通常時は、WEBで村の豊かな自然風景として、広く情報を提供することができる。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

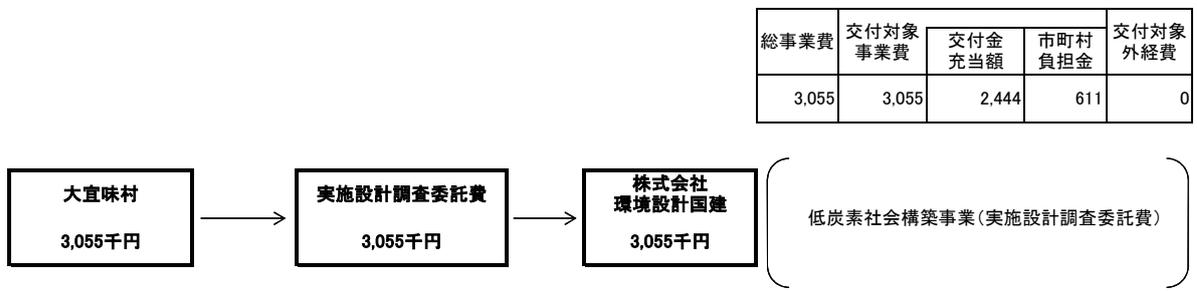


資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託・工事については、指名業者選定から指名競争入札を行っており、選定方法は妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については、事業目的の達成のために必要なものであるということを額の確定時において支出時に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	4-①	低炭素社会構築事業(省エネ設備導入促進事業)	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ウ			
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度	平成28～平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	低炭素都市づくりの推進		
事業内容	温室効果ガス(CO2)の排出を抑制するとともに安心安全な環境をつくるため、村内にある既存の防犯灯(水銀灯、蛍光灯)等を環境負荷の少ないLED照明等に切り替えまたは新設する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	<b>予算の状況</b> (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A. 計(b+d)		3,013				
			3,176				
			163				
			-				
			3,176				
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額		3,055				
			2,444				
			-				
	執行率(%) (B/A)		96.2%				
予算の状況の説明	・設計業務単価上昇したことにより事業費増額のため予算増額。 ・執行残においては入札残。 ・低炭素社会構築事業にあたり、既存の防犯灯(水銀灯、蛍光灯)等の現況調査、配置図面及びCO2排出量の調査を行ない、平成29年度からの取替工事における実施設計委託を実施。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)	達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	大宜味村LED防犯灯等新設・取替工事実施設計書の作成	目標	( 工事実施設計書の作成 )	( )	( )	( )	
		実績	工事実施設計書				
		目標	( )	( )	( )	( )	
実績							
達成状況説明	工事に向けての実実施設計書の作成を行なった。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	設置箇所及び設置個数の決定	目標	( )	( 設置箇所・個数の決定 )	( )	( )	( )
		実績			設置箇所・個数の決定をした。		
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	村内各字にある防犯灯等562箇所の現況調査、配置図面の作成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>低炭素社会構築事業にあたり、CO2排出量及び防犯灯等の現況を把握するため、平成28年度に実施設計調査業務委託を行ない、CO2排出量を6.4%削減する目標値を設定。平成29・30年度には既存の防犯灯等について、環境負荷の少ないLED照明への切替えを実施する。</p>	<p>今後、既存の防犯灯等をLED照明に切り替える際には、関係機関との調整を円滑に進め、早期にCO2排出量の抑制に努める。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>村内に設置されている防犯灯等を環境負荷の少ないLED照明への切り替えを平成29・30年度に実施し、CO2排出量の抑制に努める。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○調査事業委託については、指名業者選定から指名競争入札を行っており、選定方法は妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は事業内容に見合った適正な規模であったと考えている。</p> <p>○費目・用途については、事業目的の達成のために必要なものであるということを額の確定時において支出時に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-①	カラキ活用推進プロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-(イ)		
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成28~31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(4)		
事業内容	カラキ(オキナワニッケイ)をシナモンとしての価値に着目し村内の地域資源として活用し、苗木生産から一次加工、商品開発・ブランド構築までを一貫して行い、地域内連携を推進しながら農林業の振興、観光の振興、人材育成等の地域振興を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	(a) 当初予算額	12,690					
	(b) 予算現額	13,525					
	(c) 増減額(b-a)	835					
	(d) 繰越額	-					
	A. 計(b+d)	13,525					
	B. 執行済額	13,039					
	うち交付金充当額	10,431					
	次年度繰越額	-					
	執行率(%) (B/A)	96.4%					
予算の状況の説明	予算の増額については原木調査を基に苗木の生産目標を設定し、それにかかる挿し木業務に係る賃金及び需用費の増をおこない実施した。執行残については、作業日数の減、用土代等消耗品費の減による。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	・基本方針の策定	目標	( 実施 )	( )	( )	( )	
		実績	実施				
	・カラキ原木調査	目標	( 実施 )	( )	( )	( )	
		実績	実施				
	・成分分析	目標	( 実施 )	( )	( )	( )	
		実績	実施				
	・挿し木4,000本の実施	目標	( 4,000 )	( )	( )	( )	
		実績	4,000				
達成状況の説明	・苗木の生産・育成、収穫の基本方針は定まり、乾燥・粉末についても概略は方向付けができた。 ・原木調査については200本以上の原木を確認することが出来たが、自生している大木は2か所2本、幼木は数か所十数本で確認されたのみで、畑等の防風林として植栽されたものがほとんどであった。 ・成分分析を夏期、冬期2回実施し、カラキの味覚成分・機能性成分の時期ごとに把握する。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	・全体計画の決定	目標	( )	( 実施 )	( )	( )	( )
		実績		実施			
	・優良遺伝資源及び原料としての利用可能量の把握	目標	( )	( 実施 )	( )	( )	( )
		実績		実施			
	・カラキの機能性の把握	目標	( )	( 実施 )	( )	( )	( )
		実績		実施			
	・挿し木の完了	目標	( )	( 完了 )	( )	( )	( )
		実績		完了			
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
実績							
進捗状況の説明	収穫、乾燥・粉末化、苗木の育成等の基本的な考え方を整理した。 幼木を除く188本の味、利用可能量調査を実施。原料として利用可能な年間資源量を把握(推測)した。 成分分析を夏期、冬期2回実施し季節による成分変化の有無を把握した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年挿し木本数を増加する計画となっているため、増殖母樹を選定し、挿し穂の確保と、原料として利用する木の選定が必要である。</li> <li>・公的機関で乾燥・粉末化した加工品は販売ができない。また、県内北部地域において乾燥・粉末を委託できる民間機関が極めて少なく、商品販売に向けた実施体制作りが課題である。</li> <li>・挿し木による増殖を1月より実施し現在順調に生育中。施業時期、栽培環境等を検証し成功率の向上を図る。</li> </ul>	<p>夏季・冬季の成分分析により成分含有量に変化のあることがわかったが、葉・枝・幹・根など、部位による成分量の変化についても調査が必要である。また、セイロンシナモン、シナニッケイ、ニッケイとの成分の相違についてさらに調査が必要である。</p> <p>県内北部地域において乾燥・粉末を委託できる民間機関が少なく、さらに探すとともに、村内既存施設の改善利用など別の方法も検討していく。</p>
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥・粉末方法の向上(別の機種による乾燥・粉末の試験)と実施体制の検討</li> <li>・栽培・育成方法の検討(挿し木苗の定植方法、定植後の育成管理方法)</li> <li>・県内におけるシナモンの流通状況の把握</li> <li>・試作品開発の方針(村内の試作品アイデアの募集等)として、カラキの特性(部位ごと)や村の特産品との組み合わせ等も必要である。</li> <li>・優良苗木の増殖技術の確立と成功率の向上</li> </ul>		

資金の流れ											
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)											
大宜味村 13,039千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13,039</td> <td>13,039</td> <td>10,431</td> <td>2,608</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	13,039	13,039	10,431	2,608	0
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費						
	13,039	13,039	10,431	2,608	0						
	委託料 12,690千円 → NPO法人 沖縄有用植物研究会 12,690千円 (全体計画策定業務)										
賃金 294千円 → 挿し木作業員(3名) 294千円 (作業員3名の賃金)											
需用費 55千円 → (消耗品費)											
資金の流し、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明								
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委託事業者はプロポーザル方式により契約事業所を選定し随意契約を締結しており、妥当であったと考えている。</li> <li>○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</li> <li>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</li> </ul>								
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。									
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。									
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。									